

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/02/03

オセアニア通貨の堅調は続くか

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	⇒	RBAのスタンスを確認 予想レンジ: 83.500 ~ 89.500 円	2 - 3
NZドル/円	⇒	RBNZ声明を注視 予想レンジ: 80.300 ~ 84.700 円	4 - 5
ランド/円	⇒	レンジブレイク待ち 予想レンジ: 7.800 ~ 9.300 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



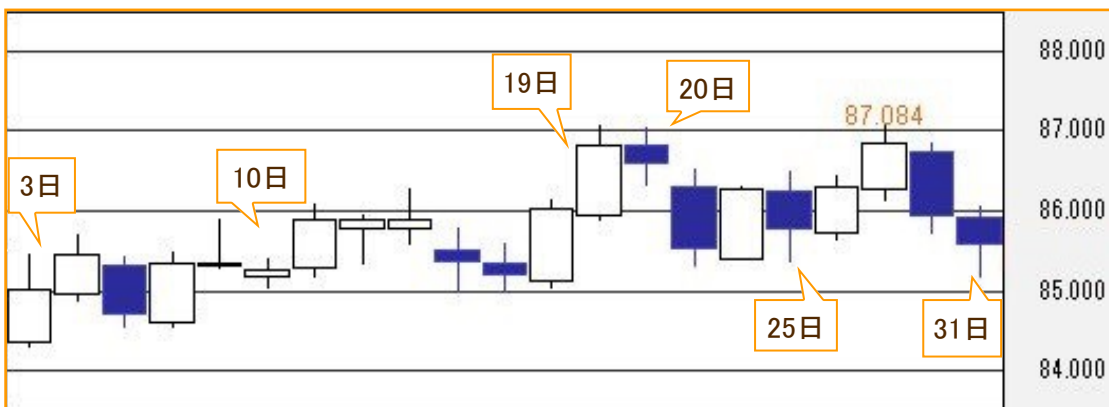
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 1月の推移

AUD/JPY

1月の豪ドル/円は、84.313～87.084円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の上昇(豪ドル高・円安)となった。上中旬は中国経済の減速懸念が緩和する中、豪州の主要輸出品である石炭や鉄鉱石などの資源価格が堅調だった事で豪ドルも底堅く推移した。ただ、トランプ氏が第45代米大統領に就任した20日以降は、米新政権の保護主義的な政策への懸念とインフラ投資や減税への期待が交錯する形で市場心理が揺れたため、豪ドル/円も乱高下する場面が増えた。そうした中、豪ドル/円は今回も87円台の壁に跳ね返される形で伸び悩み、85円台に押し戻されて1月の取引を終えた。



四本値

OPEN	84.376
HIGH	87.084
LOW	84.313
CLOSE	85.600

3日	中国12月財新/製造業PMIが51.9と予想(50.9)を上回った事を受けて豪ドル買いが強まった。その後も、中国の景況感改善を好感してNYダウ平均が上昇する中で堅調推移が続いた。
10日	豪11月小売売上高は前月比+0.2%と予想(+0.4%)を下回ったが、豪ドル売りは一時的だった。そのほか、中国12月消費者物価指数は前年比+2.1%(予想:+2.2%)、中国12月生産者物価指数は前年比+5.5%(同+4.6%)となったが、豪ドル相場への影響は小さかった。
19日	豪12月雇用統計は、雇用者数が1.35万人増、労働参加率は64.7%と予想(1.00万人増、64.6%)を上回るも、失業率は5.8%(予想:5.7%)に悪化。強弱まちまちの結果となった事もあって豪ドルの反応は限られた。
20日	中国10-12月期国内総生産(GDP)が前年比+6.8%と予想(+6.7%)を上回った事を受けて一時豪ドル買いで反応したが、トランプ米大統領の就任演説を前に上昇は持続しなかった。その後、トランプ大統領の演説にインフラ投資や減税などへの具体的な言及がなかった事から米国株が上げ幅を縮小すると豪ドル売りが優勢となった。
25日	豪10-12月期消費者物価指数が前年比+1.5%と市場予想(1.6%)を下回った事を受けて豪ドル売りが活発化した。豪準備銀行(RBA)が重視する基調インフレは前年比+1.55%と市場予想(1.50%)をわずかに上回ったが、RBAのインフレ目標(2~3%)を下回る水準とあって豪ドル売りに歯止めをかける事はできなかった。売りに巡り後も上値が重い展開となり、NYダウ平均が20000ドルの大台を突破して史上最高値を更新したにもかかわらず、戻りは86.00円台までにとどまった。
31日	米国家通商会議(NTC)のナバロ委員長が、ドイツを名指してユーロ安を批判したのに続き、トランプ米大統領が「中国や日本が市場で何年も通貨安誘導を繰り返して、米国はばかを見ている」などと発言。これらを受けて円が全面高となった。

日経平均

OPEN	19298.68
HIGH	19615.40
LOW	18650.33
CLOSE	19041.34

NYダウ平均

OPEN	19872.86
HIGH	20125.58
LOW	19677.94
CLOSE	19864.09

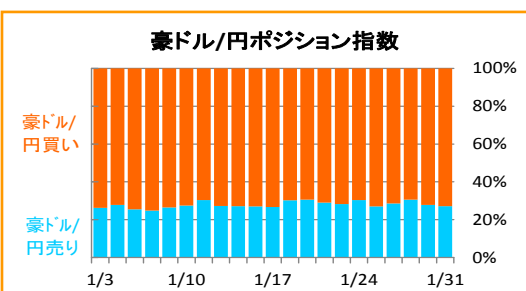
上海総合指数

OPEN	3105.309
HIGH	3174.578
LOW	3044.291
CLOSE	3159.166

豪10年債利回

OPEN	2.765%
HIGH	2.813%
LOW	2.660%
CLOSE	2.713%

1月のポジション動向



2月の豪州・中国の注目材料

- ・12月豪貿易収支(2日)
- ・1月中国消費者物価指数(14日)
- ・1月中国財新製造業PMI(3日)
- ・1月中国生産者物価指数(14日)
- ・12月豪小売売上高(6日)
- ・1月豪雇用統計(16日)
- ・RBA政策金利発表(7日)
- ・RBA議事録(21日)
- ・1月中国外貨準備高(7日)
- ・RBA四半期金融政策報告(10日)
- ・1月中国貿易収支(10日)

月間指標カレンダー(外部リンク)

2月の見通し

今年初めての(1月は夏季休暇シーズンのため行われなかった)豪準備銀行(RBA)理事会が7日に予定されている。1月25日に発表された豪10-12月期消費者物価指数は依然としてRBAのインフレターゲット(2-3%)を下回っているが、ロウRBA総裁は堅調な雇用情勢や東海岸の住宅価格の上昇などを背景に低インフレを容認する構えのようだ。このため、7日の理事会における利下げ観測はほとんどない。そればかりか、年内の利下げ観測もほぼ消滅(豪金利スワップ市場の利下げ織り込み度合いは12月で12.4%)しており、足元の豪ドル高を支えている。今回の声明に、対ドルでの豪ドル高に対するけん制が盛り込まれる可能性はあるが、緩和スタンスを強調してこない限り、豪ドルの下値は限定的となる見通しだ。もっとも、「リスク・オン通貨」の性格上、RBAの緩和スタンスが和らいでも、リスク回避ムードが強まれば豪ドルの下落は避けられないだろう。主要国の株価動向や国際商品価格の動向への目配りも欠かせない状況が続くそうだ。(神田)

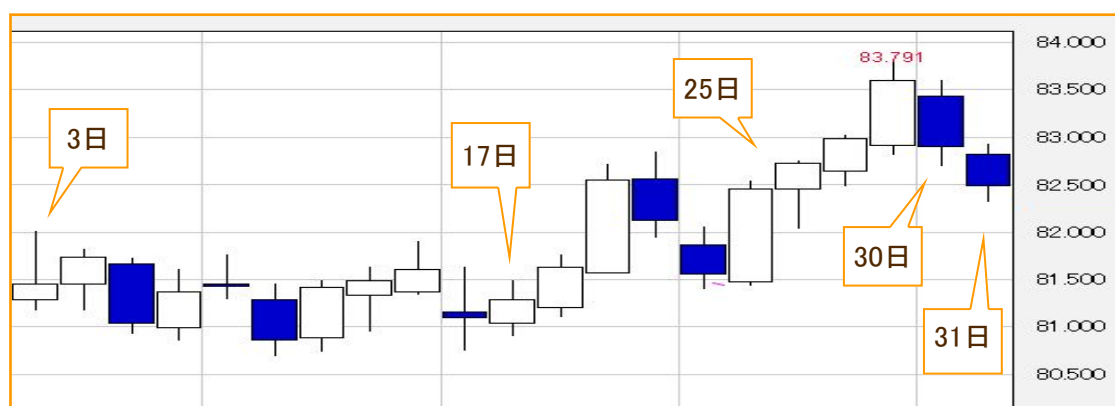
(予想レンジ: 83.500~89.500円)

NZドル/円 1月の推移

NZD/JPY

1月のNZドル/円相場は80.707~83.791円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の上昇(NZドル高・円安)となった。

前半は手掛かり材料難の中で81円台を中心とした小動きが続いたが、後半にトランポノミクスへの期待からNYダウ平均が史上最高値を更新して26日に史上初となる20100ドル台に乗せた事などから上昇した。良好なNZの経済指標が複数発表された事も追い風となり、27日に2015年6月以来の高値となる83.791円まで一段高となった。もっとも、月末にかけて保護主義や排他主義など、トランプ氏のマイナス面が強調された事が重石となり、上げ幅を縮小した。



四本値

OPEN	81.288
HIGH	83.791
LOW	80.707
CLOSE	82.496

3日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札において、GDT指数は前回比-3.9%であった。
17日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札において、GDT指数は前回比+0.6%であった。
25日	NZ10-12月期消費者物価指数は、前期比+0.4%、前年比+1.3%と予想(+0.3%、+1.2%)を上回った。また、前年比は2014年7-9月期以来2年ぶりにNZ準備銀行(RBNZ)の目標レンジ(年1~3%)の中に入った。これを受けてNZドル買いが強まった。
30日	NZ12月貿易収支が0.41億NZドルの赤字(予想:0.98億NZドルの赤字)であった。また、ジョイスNZ財務相は「NZ経済は通貨高にうまく対応」などと発言した。
31日	NZ10-12月期失業率が5.2%と予想(4.8%)から大きく上昇し、平均時給は前月比-0.3%と予想(+0.6%)に反して減少となった。直後はNZドル売りで反応するも、その後は労働参加率が70.5%と予想(70.2%)を上回った事から下げ渋った。

NZD / JPY

日経平均

OPEN	19298.68
HIGH	19615.40
LOW	18650.33
CLOSE	19041.34

NYダウ平均

OPEN	19872.86
HIGH	20125.58
LOW	19677.94
CLOSE	19864.09

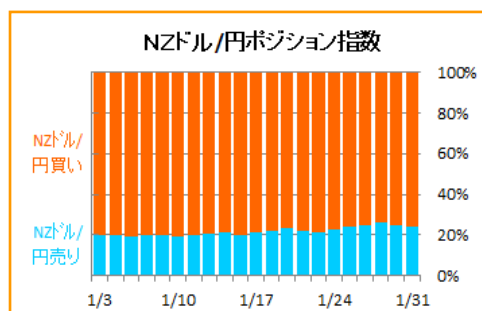
上海総合指数

OPEN	3015.309
HIGH	3174.578
LOW	3044.291
CLOSE	3159.166

NZ10年債利回

OPEN	3.343%
HIGH	3.415%
LOW	3.059%
CLOSE	3.367%

1月のポジション動向



2月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(7日、21日)
- ・10-12月期NZ生産者物価指数 (20日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート (8日)
- ・1月NZ貿易収支(27日)
- ・12月NZ住宅建設許可(8日)
- ・1月NZ企業景況感(PMI、16日)
- ・10-12月期NZ小売売上高指数 (16日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

2月の見通し

2月のNZドル/円は、NZ準備銀行(RBNZ)の金融政策発表に注目したい。事前予想では金利据え置き(1.75%)がコンセンサスとなっている。直近のインフレ率がRBNZの目標レンジ(年1~3%)の中に入ってきたことや、国内総生産(GDP・前年比)は2期連続で3%を超える成長を遂げる中、今後の金融政策の見通しに市場の関心が集まりそうだ。現在RBNZの金融政策は中立的スタンスであるが、将来的な引き締めを示唆する事があればNZドル/円に上昇圧力が掛かりそうだ。声明に注意したい。

テクニカル面では、昨年12月以降は83円台後半が重い。この水準を突破できれば84.471円(2014年12月高値94.031円-2016年6月安値69.006円の下げ幅61.8%戻し)を次の目処とした一段高も考えられる。ただし、上値の重さを嫌気して日足の一目均衡表の雲上限(今月は81円台で推移)を割り込むようならば、昨年12月26日に付けた直近安値(80.448円)に向けた一段安もあるだろう。(川畑)

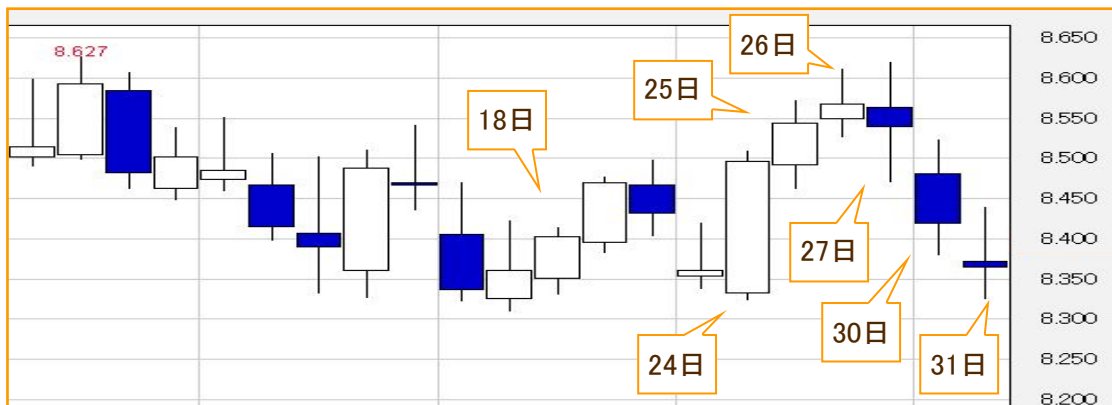
(予想レンジ: 80.300~84.700円)

ランド/円 1月の推移

ZAR/JPY

1月のランド/円相場は8.311～8.627円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の下落(ランド・円高)となった。

前月の流れを引き継いで高く始めると、4日に2015年12月以来となる8.627円まで上昇するも、その後は英国のハード・ブレグジット懸念が重石となって8.30円台まで反落。その後トランプ米大統領の財政拡張的な政策を期待した株高などを支えに切り返すも、トランプノミクスについても、保護主義や排他主義といったマイナス面が目立つようになった事が重石となり、月末に再び下押しなど、方向感が定まらなかった。



四本値

OPEN	8.502
HIGH	8.627
LOW	8.311
CLOSE	8.366

18日	南ア12月消費者物価指数が前年比+6.8%と予想(+6.5%)を上回る伸びに。南ア11月小売売上高は前年比+3.8%と予想(-0.4%)に反して上昇した。
24日	トランプ米大統領が、複数のパイプラインの建設を前進させる大統領令に署名した事を受けてNYダウ平均が上げ幅を拡大すると、ランド/円は上昇した。なお、南ア準備銀行(SARB)は政策金利の据え置き(7.00%)を決定。クガニャゴ総裁は「短期的なインフレ見通しは悪化し、経済の成長見通しも弱い状態が続いている」「長期的なインフレ見通しを抑制するような二次的な影響が生じた場合、この見解は再評価される可能性がある」「政策委は長期的な物価見通しが目標範囲の上限近辺にあり、居心地の悪い状態にあることに引き続き懸念を抱いている」などと発言した。また、SARBは2017年の経済成長見通しを1.1%と昨年11月時点(1.2%)から引き下げた。
25日	格付け会社S&Pは、南アフリカについて「経済成長率と財政再建で改善が見られなければ、格付けに圧力が掛かる」との見解を示した。
26日	南ア12月生産者物価指数は前月比+0.5%、前年比+7.1%といずれも予想(+0.3%、6.9%)を上回る伸びとなった。
27日	「ズマ南ア大統領が彼の指示に従わなかった大臣らを罷免する事を検討」と報じられると、同国の政治不安が意識されてランド売りが優勢となった。
30日	南ア10-12月期財政収支は227億ランドの黒字(前回:163億ランドの赤字)となったがランド/円相場の反応は限定的。その後、トランプ米大統領が実施した入国制限措置をめぐり世界的に反発の声が挙がった事などから、米国株が軟調に推移。NYダウ平均が20000ドルの大台を割り込み一時200ドルを超えて下落する中、ランド/円は8.381円まで下落した。
31日	南ア12月貿易収支は、120億ランドの黒字(予想:63億ランドの黒字)となったが、ランド相場は反応薄。その後、トランプ米大統領が「中国や日本が市場で何年も通貨安誘導を繰り返す、米国はばかみている」などと発言して円高が急速に進行すると、ランド/円は一時8.326円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日経平均

OPEN	19298.68
HIGH	19615.40
LOW	18650.33
CLOSE	19041.34

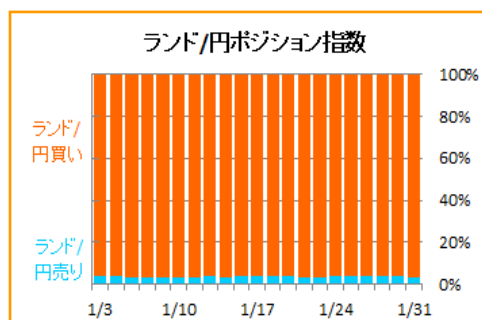
NYダウ平均

OPEN	19872.86
HIGH	20125.58
LOW	19677.94
CLOSE	19864.09

N Y 金

OPEN	1151.40
HIGH	1223.00
LOW	1146.50
CLOSE	1211.40

1月のポジション動向



2月の南アフリカの注目材料

- ・10-12月期南ア失業率(14日)
- ・1月南ア消費者物価指数(15日)
- ・12月南ア小売売上高(15日)
- ・1月南ア生産者物価指数(23日)
- ・1月南ア貿易収支(28日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

2月の見通し

1月のランド/円相場は、8.30-60円台でのみあいが続いた。目先はこのレンジを上下どちら突破するか注目したい。トレンド分析の視点からは、レンジ形成前が上昇トレンドであったことから、下抜けより上抜けの方が可能性が高そうである。もし上抜けとなれば上昇トレンドが再開する公算であり、2015年10月高値(9.162円)を次の目処とした一段高が考えられる。ただし、レンジを割ってしまうようならば、26週移動平均線(執筆時:7.799円)に向けた下押しもあり得る。

その他、南アフリカの政局に注意したい。先月27日、一部報道を受けて南アの政治不安が浮上するとランドが売られる場面が見られた。ズマ大統領は汚職問題や財務相人事などで市場の評価が低く、同大統領の強権を発動する恐れが強まった場合は政治不安を嫌気してランドが売られる事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:7.800~9.300円)